

# 実践力を養成するための課題設定の試み

濱 口 な ぎ さ

Trial of the problem setting to train a practice power of student

Nagisa HAMAGUCHI

キーワード：課題設定 実践力 プロジェクト学習 グループ活動

## 1. はじめに

今年度から本コースでは「学生の実践力強化」をコース共通の課題と定め、各教員がさまざまな対策に取り組み教育力の向上を図っている。特に、各教員が担当する授業においてアクティブ・ラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生達が能動的に参加するよう働きかけることを目指している。これは、教員による一方的な授業になりがちな講義科目において学生の参加意欲を喚起し、担当教員と学生による双方向の授業となるような取り組みを求めたものであるが、演習科目においても当然採用すべき対策であることは明らかである。

筆者が担当している「オフィス情報演習」（2年後期開講・演習科目）は卒業前の必修科目ということもあり、卒業後を見据えて実践的な内容となるよう定期的に授業内容の見直しを図っていた。今年度は特に「学生の実践力強化」のため、新たな課題設定を試みた結果、若干の成果が得られたため、本報告としてまとめてみた。執筆時点では開講中の科目であるため中間報告の形となってしまうことをお許しいただき、今回の成果を次年度以降の授業をさらに改善するための指針としたい。

## 2. 研究の背景

「オフィス情報演習」では、「ワープロ、表計算、プレゼンテーション、データベース等、オフィス用の統合アプリケーションソフトの活用方法を学ぶ」ことを科目の主題としている。そのため、学生達が1年次から2年前期にかけて主にパソコン

（以下 PC）系の科目で学んできた技能を活用し、社会に出た後、どのような場面で応用できるかを示すための課題設定を行ってきた。

1年次から2年前期にかけて筆者が担当している PC 系の演習授業では、教科書等に掲載されている手本となる課題をそのまま作成するものが多い。特に、1年後期開講の「ビジネス文書作成2」では、日商 PC 検定受験対策に力を入れており、検定では実際の業務を想定した課題が出題されることから、問題集に沿った形で文書作成を行いながら知識や技能を修得できるよう指導している。その結果、現2年生については1年後期の2月に実施した日商 PC 検定（文書作成）3級の合格率が95%を超えており、客観的に見ても Word を使った PC 操作に関して、基礎的な技能の修得ができていけると言える。

本コースの卒業生は毎年半数以上が事務職として就職している。就職先では PC を活用し業務に合わせたさまざまな資料作成ができる、確かな技能に基づく実践力を持つ人材が求められていることは想像に難くない。求人票にも「Word、Excel の基本操作ができる人」と明記される例が増えて

いる。実際の現場では、職場ごとの定型様式はあったとしても、手本通りに文書等を作成することはありえず、臨機応変に対応できる力が必要である。そのため、2年後期に開講している「オフィス情報演習」の授業では、学生達が修得した Word を中心としたオフィス系ソフト操作技能を活用し、

応用・実践ができるような課題設定が必要だと考え、授業計画を立ててきた。

### 3. 授業内容

「オフィス情報演習」の平成27年度の授業内容は表1のとおりである。

昨年度も、学生達が修得した技能を応用する方法として主に Word を活用し、名刺やポスターの作成、誌面編集等の課題を行った。例えば、将来、診療所で患者への連絡事項を分かりやすく伝えるためのポスターを作成したり、顧客に対する情報発信の手段としてニューズレター等のおたよりを出す場面を想定した課題の提示である。例年、ページ設定等、最低限の条件のみを示し、あとは自由な発想で学生達に課題に取り組ませ、自分の考えを PC 上で表現する方法を知りたいという要求が出るタイミングを逃さず、適切な指導を行うようにしてきた。

例えば名刺作成では、下記のような項目について学生自身に考えさせた。

- ・就職活動やプライベートなど、名刺を使用する場面を想定する
- ・用途によって適切なデザインや記載項目があることを意識する
- ・名刺に掲載する個人情報がどのように取り扱われるか想像する
- ・秘書関係の授業で学んだ名刺交換のマナーを

確認する

これまで、与えられた手本をそのまま再現する課題に慣れていた学生達は、自分で考えながら課題に取り組むことに戸惑いを感じるようである。初回の授業では、何から始めればよいか思いつかずしばらく呆然と過ごしたり、些末なことをいちいち教員に尋ねて確認しないと先へ進めない学生も見受けられた。しかし、次々と新しい課題に取り組んでいくにつれて、頭で考えたことを PC の画面上で実現するためにどうすれば良いか、具体的な方法を模索するようになり、完成形をイメージすることでそのために必要な新しい技能の修得にも積極的となっていく。

今年度は、課題設定にプロジェクト学習の視点を取り入れ、課題解決のための資料作成を行うこととし、個人とグループで取り組む2種類を準備し、学生達が意欲的に取り組めるような工夫を試みた。

### 3.1 個人で取り組む課題

#### 3.1.1 課題の内容

「プロジェクト学習における題材を決めるとき一番大切な事は、学習者にとって『自分ごと』と感じるものとする事、また目の前の現実社会や状況にある要素とします。」(鈴木、2012、p.36)という意見を参考にし、学生にとって身近な課題(プロジェクト)を提示すれば授業への意欲が増

表1 平成27年度「オフィス情報演習」授業内容

第1回	授業ガイダンス、企画書について概要説明
第2回	弥生祭模擬店の企画書作成(個人課題)
第3回	企画内容についてプレゼンテーション(個人課題)
第4回	損益計算書・スケジュール管理図の作成(個人課題)
第5回	チラシ・ポスター等広報物の作成(個人課題)
第6回	オープンキャンパス企画の立案(グループ課題)
第7回	オープンキャンパス企画の立案(グループ課題)
第8回	オープンキャンパス企画のプレゼンテーション(グループ課題)
第9回	スタッフ用名札、会議用三角席札、ノベルティの作成
第10回	ノベルティの完成、誌面編集のポイント指導
第11回	卒業文集の作成：編集計画の立案、レイアウトモデル記事準備
第12回	卒業文集の作成：インタビュー取材、素材準備
第13回	卒業文集の作成：記事作成、編集
第14回	卒業文集の作成：記事作成、編集、誌面割付
第15回	卒業文集の完成

すのではと考えた結果、10月末から11月かけて行われる「弥生祭模擬店企画（以下模擬店企画）」を課題として取り上げることとした。

この課題を授業で実施した9月の時点では、既にクラス会によって模擬店の内容は「揚げ物の販売」と決定していたが、企画のリーダーに確認したところ具体的な計画は立てられておらず、リーダー以外の学生は、全くの他人事で情報共有も不十分であった。

そこで、学内で行われる模擬店企画であっても、実現のためにはどのような準備が必要か、学生一人一人が当事者として考える機会を持たせることで、将来社会人となれば、もっと難しい企画立案を任される場合もあることを想像するきっかけにしたいと考え、課題として採用した。

具体的には、各自に模擬店企画を行う目的、目標（成果）を設定させ、その目的や目標を実現するためにはどのように準備し運営していけばよいか、全体像を明らかにするための企画書作成から始めた。

① Word で企画書を作成する

「企画の動機」「企画の名称・概要」「企画の目的（目標）・期待する成果（効果）」「企画実現の方法（費用・物品・スタッフ）」「企画実現のためのスケジュール」をまとめる。

② Excel を使用して損益計算書を作成する

簿記会計学などで学んだ知識をもとに、予算・経費・売上等を予測した損益計算書を作成する。

③ Excel を使用してスケジュール管理図を作成する

クラス全員が協力して取り組むために、どのような役割が必要か、いつから取り掛かるかなどを予測し、当日までのスケジュール及び当日の当番表（シフト表）を作成する。

④ Word を使用してポスターやチラシを作成する

自分たちの企画を外部の方々に広報するためのポスター・チラシを作成する。いつ、どこで、なにが、いくらで売られ、誰が販売しているのかが分かる情報を入れる。

①の企画書については上記のような項目を提示

し、様式や具体的な記載内容についてはインターネットで情報検索を行い、参考にするよう指導した。企画書作成後、各自の企画内容についてプレゼンテーションを行い、他者の考えを知る機会を設けた。このプレゼンテーションを行ったことにより、全員の模擬店企画の目的・目標が分かり、皆ほぼ同じ考えであることが確認できた。さらに自分の考えが浅く、配慮が足りないため企画書の内容が不十分であることに気づかされた学生もいた。

②の損益計算書を作成するためには、模擬店企画のために必要な物品を検討し、購入する際の価格を調査し、これらの情報をもとに予算設定を行うという過程が必要である。全員が「簿記会計学1」の授業を受講しており、少しは予算・決算についての知識は持っているはずだが、実際に予算設定をした経験がないためか、学生達はこの部分でかなり苦労している様子が見受けられた。

例えば「から揚げ」を販売し、利益を出すために、「いくらで仕入れ、いくらで売れば儲けが出るか」「包装材等、商品を売るために必要な消耗品にはどんなものがあるか」ということを考えるだけでもかなりの時間を費やしていた。この損益計算書を作成する時点で、実際の企業等ではこの他に人件費、設備費、光熱費などの経費も発生する中でいかに利益を上げるか知恵を出し合っていることを伝えることで、企画を考える上で事前に予算設定をすることの重要性が理解できたようである。

なお、損益計算書の様式については、1年次に筆者が担当した「情報検索」で使用した教科書「大学学びのことはじめ」に掲載されている「模擬店の準備－費用と利益の計算」を参考にするよう指導した。

### 3.1.2 学生の感想

模擬店企画の課題に取り組んだ学生達からは、下記のような感想が寄せられた。

・企画書を作ってみて、自分一人で一から作るのはとても難しいことだと感じた。自分一人で作るとなると知識が足りないために

情報が偏ってしまうことを感じた。実際仕事としての企画書であれば、もっと複雑なものになって大変だと感じた。

- ・企画書を作成してみてもすごく難しいと感じました。今まではこういった難しいことはまわりの誰かが私の知らないところでやってくれていて、自分はただそれに従うだけでした。だから、企画の目的や予算書などを実際に自分で立てることによって今までどれだけ楽をして、甘えてきたかを実感しました。
- ・企画書を作成してみて、企画の意図や目的・目標などを明確にできたことで、たった一日の模擬店であっても思い入れのあるものになったように感じました。
- ・初めて企画書を作成しましたが、思っていた以上に大変で、細かい気づきができるかどうかで、全然仕上がり方も違うことがよくわかりました。
- ・アルバイトで店長がシフトを作っている様子をたまに見かけて私も手伝うことがありますが、シフトを作るのも大変な仕事だということがわかりました。
- ・これまでは、計画されたものを行う立場だったので、企画する側のことをよく理解していませんでしたが、今回の経験で理解することができました。
- ・今回この講義で企画書やスケジュール表を作り、自分でなにかを最初から作ることの難しさを知りました。今まで講義でなにかを作るときには教科書などの完成例があったけど今回はそういうのが全く無かったのでそこが一番難しかったと感じました。
- ・特に企画書作成の際苦労したことは、予算はどれくらい必要でスケジュールはどういう流れになっているかなど具体的に自分で想像しながら考えて作成するのが難しかったです。ですが一年生の時、完成したビジネス文書は授業で何回も作成したことがあったので、こういったことを企画書に記載した方がよいかの大まかな概要は分かっていたので、良かったと思います。

- ・企画の目的や実現方法を考える際に、自分視点のことしか考えておらず、お客さんのことを忘れていて作成しなおしたところです。クラス全員の企画書を見たときに、費用やスケジュールを細かく作成している人がいて、私から見てもとてもわかりやすく感じ、見る人がわかりやすい企画書を作ることの重要性を学びました。
- ・今後、このような企画書を作る時はあらかじめ具体的な目的・得られる成果・担当を決めてからつくるのがいいのではないかと思います。今回は、企画に携わる人たちと話し合いながら決めたわけではないので問題もなかったですが、実際企画書を作るにはその企画に携わる方との話し合いを設けて作るのが大切になってくるのではないかと考えました。

上記のように、受け身で行えば良い課題でなく、自らの課題として能動的に考え企画書を作成しなければならないことに戸惑いや難しさを感じたとの感想もあるが、最終的には他者の視点を意識することや事前に予想することの重要性などに気が付いたと記述するものが多く、学生達の気づきを導き出すことには成功したと考えている。

### 3.2 グループで取り組む課題

個人で企画を考える大変さを経験した学生達へ、次はグループ課題として複数のメンバーで協力しての「オープンキャンパス企画立案」を提示した。

この課題には自分たちが所属している組織を学外、特に高校生にPRする企画を考えることで、これまで気づけなかった本コースの魅力を再発見し、高校生にその魅力を伝える方法を考えることで、改めて自分たちの短大生活を見つめ直す機会として欲しいという意図も含んでいる。

もちろん、学生達が考えた企画で良いものがあれば次年度のオープンキャンパスで採用したいという思惑もあった。

グループ編成は、実際に本学のオープンキャンパスで学生スタッフの経験がある学生を必ず含む形とし、あとは座席が近い者同士（5～6人）で

の4グループ(A~D)とした。また、各グループでリーダーを決め、話し合いの進行を行うように指導した。残念ながら授業時間数の制限があったため、3週間(90分×3回)での取り組みとなったが、最終的に各グループから表2のような企画が提案された。なお、この課題では予算等、必要経費は考えずに計画を立てている。

### 3.2.1 オープンキャンパス企画の内容

コースの特色をPRする体験学習、在学生との交流方法、昼食、ノベルティ(記念品)、広報について、4グループが立案したオープンキャンパスの内容は表2のとおりである。それぞれのグループで学生達が高校生の視点に立って楽しめる内容を考え、逆にその内容で自分たちが高校生を楽しませることができるか、そのためにはどうすればよいか具体的に検討していることが分かる。表2には掲載しなかったが、高校生を出迎える方法や最後の見送りまで細かく計画しているグループもあった。

企画内容について、各グループ全員によるプレゼンテーションとその場での質疑応答を行った後、各学生による講評用紙への記述・提出と感想提出を行った。

### 3.2.2 学生によるグループ課題の感想

グループ課題に取り組んだ学生達からは下記のような感想が寄せられた。

- ・グループでやることは、一人でやるより人数がいるため、アイデアもそれだけ多く出てきました。また、ほかのグループの発表を聞いて自分たちには思いつかなかった企画や考えもたくさん聞けて、アイデアはもっと考えれば、出てきそうだと感じました。
- ・高校生をもてなすために、何をしたらいいのか考えるのは想像以上に難しいものでした。オープンキャンパスというのは、短大に興味をもってもらい、入学する生徒を増やすことにも目的があるため、どうしたら高校生が、1日飽きずに楽しく過ごせるの

かを考えました。今自分たちが学んでいる授業を使って、楽しく勉強にもなるような企画を考えました。授業を楽しめるものに工夫し考えることが難しく、一番時間がかかりました。

- ・今回は、予算や時間帯などを考えなくてよかったため、割と自由に考えることができましたが、これに予算や時間などを詳しく考えると、まだまだ企画を練らないといけないため、時間がかかり大変になると思います。
- ・グループで企画発案をする際には、メンバーの性格や人柄、自分と合うがどうかも企画自体には直接関係はないけれど、大事なのだと思いました。また、これは企画発案の時だけに限らず仕事やなにか複数人で作業を行う場合でも言えると思います。今後意識していきます。
- ・リーダーがまとめ役となり、1人1人に意見を求めるとよいと考えました。また、リーダーだけでなく、メンバーも人の意見には否定的にならずまず認めるという心がけも重要だと思います。
- ・グループになって企画を考えるのは一人でするときより楽しかったです。またグループ企画は、人任せにするのではなく、自ら意見やアイデアを出して協力し合う事が大切だと思います。私も意見を言うことができたので役に立てたのかなと思います。また、こんな授業があると思うので次も楽しんで授業をできたらいいなと思いました。
- ・一人で企画を考えるときには出なかったものが今回のオープンキャンパス企画ではたくさん出てきました。授業で学んだこと、将来必要になってくること、楽しんでもらう為に私たちができることなどみんなで楽しく話しながらだとたくさんの意見が出てきました。パワーポイントをつくるのも楽しかったです。
- ・今回は予算を考えなくてよかったので宣伝方法のCM作成やノベルティのクッキーなど面白い意見がたくさん出ました。予算

表2 各グループの立案内容

	項目	内容・理由等
Aグループ	体験	① Word のテンプレートで名刺を作成し、名刺交換を行う Word の使い方に慣れる・秘書の授業体験 ② Word を使って四コマ漫画を作成 Word の機能を知る、想像力を養う、発表して楽しむ
	昼食	① サラダうどん、フルーツポンチ ② から揚げ定食、アイス ③ トルコライス、ゼリー
	交流	◎宝探し（人探し） ・体験授業で行った名刺交換を応用し、名刺の人を探す。 ・親睦を深める
	記念品	学校のロゴ入りクッキー、3色ボールペン、オリジナル QUO カード
Bグループ	体験	◎宝探し ・お茶出し、名刺作り、タイピング、ペーパークラフト ・ゲーム感覚で実施し、1つを体験したら次の体験への伝える
	昼食	◎バイキング形式 ・パン、ごはん、からあげ、サラダバー、ケーキ、ハンバーグ、フライドポテト、フルーツミックス、パスタ、スープ
	記念品	飾り付けにも使用するくつした
	広報	SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタ） ポスター掲示（バス停、高校）
Cグループ	体験	スタンプラリー ・ Word で台紙を作る ・作成した台紙を使用し学内を回り、各教室で体験する ・秘書実習室（お茶とお菓子のいただき方体験） ・141教室（カタルタ・アンゲームでフリートーク） ・221教室（心理テスト） ・パソコン室（質問コーナー）
	昼食	・から揚げ定食 ・31アイスクリーム 食べたいアイスを決めるためにゲームをし、コミュニケーションをはかる
	記念品	動物クリップ
Dグループ	体験	◎Lで受けることのできる授業の内容 ・ワード、エクセル、パワーポイント、アクセス ・秘書（敬語、電話対応、お茶出し、etc...） ・医療事務（レシピ作成、医療法等）
	昼食	から揚げ、うどんセット、かつ丼、日替わりメニュー
	交流	◎私は誰でしょうゲーム ◎高校生と一緒にご飯を食べる
	記念品	・お菓子詰め合わせ ・アイス ・ポケットティッシュ ・筆記具（4色ボールペンやマーカーペンなど） ・クリアファイル
	広報	・ポスター（学生の出身校の廊下に貼ってもらう） ・パンフレット（高校の進路指導室等に置いてもらう）

を考えていたらこんな面白い意見はでなかったと思います。実際にこのメンバーでオープンキャンパスをしたいと思いました。

- ・自分の企画が採用された時はとても嬉しくてどんどん企画を出していきたいと思いました。一人で企画書を製作したときはひとつの企画にとっても時間がかかってしまいましたが皆で考えた企画はスムーズにあったという間に終わりました。またみんなで企画を考えたいです。
- ・今回はグループ活動ということでひとりではなく仲間がいたのでどうするか悩んだときも自分にはない意見が聞けてとても参考になったし実際に行う企画ではないけれど、わくわくしながら企画を考えることができたのですごく楽しいと感じました。
- ・六人グループだったのですが、主に三人くらいしか発言できていなかったのも、発言できていない人にももっと話を振ることができたらよかったかなと感じました。話を進めてみんなが平等に発言できるようにするリーダーの大切さを学ぶことができました。
- ・私は今回の企画について、ほとんど意見を出せなかったのも、次回こういった機会があれば積極的に意見を出していこうと思います。周りの人がほとんど考えて、発表するためのスライドも作っていたのも、次回からは何かしら自分の役割を見つけて行動したいと思いました。

上記の学生達の感想から、個人で企画を考える経験を積んだからこそ、グループ活動との違いを認識することができ、仲間と一緒に課題に取り組む楽しさを知ったことが伺える。

#### 4. 結果と考察

今年度新たにプロジェクト学習の視点を取り入れ、「模擬店企画書作成」と「オープンキャンパス企画立案」の2つの課題を設定した結果、学生達が提出した様々な資料から積極的に授業に参加していたことが読み取れた。現時点で学生達の実

践力を養成することができたか検証することは難しい。しかし、自分一人で課題に取り組むよりも、グループで協力し合う方が良いものができると感じた学生が多かったことは、社会人となったときに生きてくる経験だと考える。

また、自分とは異なる意見に耳を傾け、自分の意見をきちんと伝え、受け入れてもらう難しさと楽しさを感じた学生が多かったことも収穫であった。筆者が意図した以上に、グループ活動に対する学生達の反応が良く、またグループで企画を考えたいという意見が多く寄せられたことは嬉しい誤算であった。

今年度の反省点として、個人で取り組む課題とグループ課題がそれぞれ1つずつしか設定できなかったことと、次の活動へ活かすためのフィードバックが十分にできなかったことが挙げられる。学生から「またみんなで企画を考えたい」という前向きな意見が出ている時に続けて次の課題に取り組ませることで、より積極的・能動的な授業への取り組みが期待できるのではないだろうか。

授業の実施報告に終始し、具体的な成果の検証が不十分となってしまったが、今回新しい課題設定を行った結果、学生達の感想からは好意的な評価が得られたことは大きな収穫であった。

次年度は、最終課題として個人で取り組ませていた卒業文集の作成をグループ活動にし、それぞれのグループで1冊ずつ異なる文集を編集するような形にするなど、現行の課題も再検討したい。また、実施時期や期間、フィードバックの方法も改善していくことで、学生の実践力養成につなげていきたい。

#### 参考文献

- 1) 鈴木敏恵 (2012) 課題解決力と論理的思考力が身につく プロジェクト学習の基本と手法 教育出版.
- 2) 佐藤智明ほか編 (2011) 新編 大学 学びのことはじめ ナカニシヤ出版.
- 3) 新井和広・板倉杏介 (2013) アカデミック・スキルズ グループ学習入門-学びあう場づくりの技法 慶応義塾大学出版会